

CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 10 No.15 2008年8月31日号

編集:editor@cna.jp 広告:pr@cna.jp 読者登録:<http://cna.jp>

Copyright 2008 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

ポリコムジャパン、HD対応中小規模向けの多地点会議サーバのエントリーモデル Polycom RMX 1000 を日本国内発売



Polycom RMX 1000

ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)HD対応、中小規模向けのリアルタイムメディア会議プラットフォーム「Polycom RMX 1000」を発表した。

Polycom RMX 1000は、同社が既に販売している上位機種 Polycom RMX 2000と同様、柔軟性に富み、レガシー環境をサポートしながらHD環境でもパワーを発揮するシンプルで使いやすい多地点会議プラットフォーム。Polycom RMX 2000はモジュラー構造で拡張性に優れ、大規模運用を想定した多地点会議プラットフォームだが、それに対して Polycom RMX 1000は、最大20までの同時接続を可能とする中小規模のビデオ会議、音声会議多地点会議に対応した低コストのエントリーモデルとなる。また12ポート、16ポート、20ポートの各構成を提供しており、H.323のビデオ会議端末と音声会議端末、あるいはHDビデオ会議端末とSDビデオ会議端末の混在多地点会議が可能だ。

映像は、720pのハイビジョンに対応しているほか、音声は、22khzの「Polycom Siren 22 StereoSurround(サイレン22ステレオサラウンド)」、また会議中に共有されるデータは、XGA

の他、H.264圧縮を使用したH.239でも提供されるため、映像、音声、コンテンツと高解像度での会議(ポリコム社の提唱するUltimateHDに対応している)が行えるという。

会議実施においては、オンデマンド(予約なし)で開催することができるほか、オプションの「RMX 1000 Personal Conference Manager(パーソナル・コンファレンス・マネージャ)」を使用することで、予約を行って実施する会議にも対応している。あるいは、ユーザやグループの要件を「会議プロファイル」で設定すると、定期的に行われる会議の操作が簡単になる。また「XML APIツールキット」を使用することで、Polycom RMX 1000の会議機能を、企業の既存のアプリケーションやワークフローにシームレスに統合することも可能だ。

Polycom RMX 1000上で実施される会議はAESで暗号化されるためセキュリティを保った中で会議が行えるとともに、「Polycom Lost Packet Recovery(ポリコム・ロスト・パケット・リカバリー:パケットロス時の音声・映像データ修復機能)」技術を実装することで、ネットワークがビデオ通話に最適化されていない環境においても高品質な映像、音声、コンテンツ伝送が可能になるという。

システム管理は、アクセス権限(ユーザとシステム管理者)をレベル分けすることで、セキュリティを保ちながら、Webブラウザ経由で管理や各種設定などが行える。また Polycom RMX 1000は、システムリソースの割当の最適化を行うことで、常に最高の動作効率で動作するように設計されていると同社では説明する。

価格(税別、以下同)は、2008年8月19日現在、12ポートライセンスが385万円、16ポートライセンスが518万円、20ポートライセンスが650万円となっている。アップグレードオプションは、4ポートライセンス追加からとなっており、123万円。その他、最新ソフトウェアへのアップグレードラ

イセンス(154万円、保守契約期間内のソフトウェアアップグレードは無償)、スケジューリングソフトウェアライセンス(36万2000円)、HD画面分割ライセンス(174万8000円)となっている。

ポリコムジャパン、VORTEXに加え音声ソリューションを強化、SoundStructureシリーズの提供開始



Polycom SoundStructureシリーズ(写真はSR12)

ポリコムジャパン株式会社(東京都港区)は、設置型音声ソリューションとして「Polycom SoundStructure(ポリコム・サウンドストラクチャー)シリーズ」を発売(8月19日)した。

同社では、従来 Polycom VORTEX シリーズを販売してきたが、今回の Polycom SoundStructure シリーズの追加で、同社の音声ソリューションのラインナップを強化することになる。VORTEX シリーズは今後も販売、サポートも継続する。

Polycom SoundStructure は、従来のバス構造の制約を受けることなく、複数の SoundStructure システムを接続し、ひとつの大きなシステムとして連動させることができる「OBAM マトリックスアーキテクチャー」を採用した音声処理システム。

また高性能な DSP(デジタル・シグナル・プロセッサ)を実装し、さまざまな入出力オプションとサブミキサー機能を備え、大会議室や講堂などで、マイク、スピーカー、ビデオ会議システム、電話、AV 機器などの音声を処理することができる。

Polycom SoundStructure シリーズの特長は以下のとおり。
(1)すべての入力チャンネルに、アコースティックエコーキャンセラーを適用した 22kHz の広帯域ステレオ音声を提供するとともに、ハウリング除去、ノイズキャンセラー、オート ゲイ

ン コントロールなどの機能も実装している。(2)Windows ベースのコンフィグレーションソフトウェア「Polycom SoundStructure Studio(ポリコム サウンドストラクチャー スタジオ)」を使用することでインストレーションや各種設定操作を容易することができる。(3)テレフォニーカードオプション(スロット)を提供することで、インテグレータのニーズに対応している。(4)Polycom HDXビデオ会議システムへの直接デジタル接続が可能で、Polycom HDX マイクや拡声器の出力に Polycom Structure を接続し、Polycom Structure デバイスに設定ファイルをアップロードするだけで、音声システムを短時間で簡単に構成できる。

Polycom SoundStructure シリーズでは、エコーキャンセラー、ノイズキャンセラー付きの「Polycom SoundStructure C シリーズ」を 3 機種、そしてエコーキャンセラー、ノイズキャンセラー無しの簡易モデル「Polycom SoundStructure SR12」を提供する。

Polycom SoundStructure C シリーズの価格については、8 チャンネルの「SoundStructure C8」が 87 万円(税抜き、以下同)、12 チャンネルの「SoundStructure C12」が 114 万円、16 チャンネルの「SoundStructure C16」が 140 万円。「SoundStructure SR12(SoundStructure C12 の簡易モデル)」の価格は、81 万円。

NTT ビズリンク、フレッツ IP 多地点サービスのオプションサービス:「挙手サービス」、「アーカイブサービス」、「多地点接続ログサービス」

NTTビズリンク株式会社(東京都文京区)は、IP での多地点テレビ会議接続が行える「フレッツ IP 多地点サービス」のオプションサービスとして、「挙手サービス」と「アーカイブサービス」を 5 月 30 日より開始している。

また 8 月 1 日から「多地点接続ログサービス」の提供を開始した。

挙手サービス

参加者状況や発言の意思表示、発言の指示などが簡

便に出来ないかとの要望が強かったため今回 NTT ビズリンクで、PDA(電子端末)とタッチパネルなどを組み合わせたシステムを開発しサービスとして提供開始することにした。PDAは会議参加者側、タッチパネルは、会議主催者に設置する。

挙手サービスは、多地点テレビ会議中に、参加拠点間での質疑応答を行ったり、点呼、アンケートが取れるサービス。

会議参加拠点(会議参加者)は、PDA 端末を利用して、質疑の意思を表明したり、点呼の応答、アンケートの回答を行ったり、一方主催者拠点(会議主催者、司会者)では、視聴拠点からの質疑の意思、点呼の結果、アンケートの結果がタッチパネル型の端末において確認ができる。

挙手サービスには、「点呼」、「挙手」、「発言指示」、「アンケート」の4つの機能を提供している。

「点呼機能」では、会議開始前に、会議参加拠点側と主催者側との間でテレビ会議に参加できているかどうかの点呼を取ることができる。主催者が各拠点に呼びかけなくても、参加者が PDA の点呼ボタンを押すことで、主催者側に設置されているタッチパネル画面に自動で表示される。

「挙手機能」は、会議参加者が主催者に対して、会議中に発言をしたい旨の意思表示をすることのできるサービス。会議参加者が PDA にて挙手ボタンを押すことで主催者のタッチパネル画面に表示され、一方主催者がそれを受けて、タッチパネル画面にてその参加者(挙手者)を選択すると、テレビ会議の画面がその参加者に切り替わる。

発言指示機能は、挙手の生むに関係なく、主催者から参加者に発言の指示をすることができる。主催者のタッチパネルに表示されている拠点リストの中から任意の拠点に対して、発言指示を行うことができ、発言をもとめられた参加者の PDA にはその旨の表示がされる。

「アンケート機能」は、主催者側であらかじめ設定したアンケートの選択肢に対し、参加者が PDA を使って回答することで、主催者のタッチパネルに選択肢毎の回答状況が表示される。またアンケートの投票結果を受け、任意の参加者を指定して発言を求めることも可能。

挙手サービスの導入費用(税込み)については、初期工事費は1ユーザあたり525,000円、タッチパネル工事費は105,000円/台(*ルータと同時工事時は、73,500円)、挙手

拠点工事費は、84,000円/台(*ルータと同時工事時は、52,500円)(ルータと同時工事時とは、フレッツIP多地点サービスの拠点工事の際の開通工事を指す)

毎月の費用については、基本費は、105,000円/ユーザ/月、タッチパネル利用費は52,500円/台/月、挙手サービス拠点利用費は5,250円/台/月となる。

サービス利用にあたっては、日本国内のNTT東西のBフレッツあるいはフレッツ光プレミアムに加え、NTTビズリンクのフレッツIP多地点サービスを利用することが必須になるという。最低利用期間は1年。

NTTビズリンクとしては、サービス開始後1年間で10ユーザ、1,000挙手サービス拠点の販売を目標としている。来年提供開始予定のNGN等でのサービス展開も検討していくという。

アーカイブサービス

アーカイブサービスは、テレビ会議で行われた研修の様相や社長講話を後で視聴できないかという要望に応えたサービス。

アーカイブサーバにテレビ会議の様相を録画登録するか、もしくはDVDなどのコンテンツを登録することにより、各コンテンツにコンテンツ番号が割り振られる。視聴拠点は、テレビ会議端末を利用して、コンテンツ番号を入力することによって、あらかじめアーカイブサーバに蓄積されたコンテンツの視聴をおこなうことができる。

サービス機能としては、「コンテンツ視聴」と「コンテンツコントロール」の2つが提供されている。

「コンテンツ視聴機能」は、登録したコンテンツを、テレビ会議端末経由でテレビモニターにて視聴することができるサービス。コンテンツは、DVDなどの映像データをサーバに登録するか、または多地点接続サーバ(MCU)の会議室にて開催するテレビ会議の様相をサーバ上に録画することで視聴が可能になる。ユーザは、コンテンツごとに割り振られたコンテンツ番号をテレビ会議端末の接続先に入力し、接続をすることでコンテンツが再生される。

「コンテンツコントロール機能」は、利用するテレビ会議端末で、相手側カメラのコントロールができる場合、コンテンツの早送り、巻き戻し、一時停止が可能になり、コンテンツ視聴がより便利になる機能。

アーカイブサービスを利用する場合の初期費用は、1ユーザあたり210,000円、毎月の基本費用は、タイプS、M、Lと3タイプある。「タイプS」は、1同時録画・5同時再生・120時間分保管で、210,000円/ユーザ/月、「タイプM」は、5同時録画・10同時再生・120時間分保管で、367,500円/ユーザ/月、「タイプL」は、10同時録画・20同時再生・120時間分保管で、525,000円/ユーザ/月。

20同時再生追加毎に525,000円/ユーザ/月。大容量オプション(2,000時間分保管)は、210,000円/ユーザ/月。複数年契約による、利用費の割引サービスもある。

アーカイブサービス利用にあたっては、挙手サービスと同様に、日本国内のNTT東西のBフレッツあるいはフレッツ光プレミアムに、NTTビズリンクのフレッツIP多地点サービスを利用することが必須になるという。最低利用期間は1年。

NTTビズリンクとしては、サービス開始後1年間で6ユーザ、120サービス拠点の販売を目標としている。

多地点接続ログサービス

フレッツIP多地点サービスのユーザ向けに、多地点接続のログが確認できる「多地点接続ログサービス」の提供を8月1日より開始した。多地点接続サービスを社内でのくらし活用しているか、またどのような会議が多く実施されているか、など様々な分析に役に立つと同社では説明している。費用は、2,100円/ユーザ/月。

AT&T ジャパン、自社導入、ASP、ハイブリッドに対応した Web 会議システムを発表

AT&T ジャパン株式会社(東京都港区)は、Web 会議システム「AT&T Connect(AT&T コネクト)」を8月7日に発表した。

AT&T のグローバル・ネットワーク、ホスティング、セキュリティ、障害時のフェイルオーバーなどのサービスを組み合わせ利用でき、オンサイト(自社導入)型、ASP サービス(AT&T のデータセンタのサーバ使用)型、そしてその双方の併用型(ハイブリッド)、の3タイプの Web 会議システムを提供することになる。

今回発表した AT&T Connect は、電話、Web、ビデオ会議をひとつのプラットフォームに統合し、中規模から大規模の企業ニーズに対応している。Eメールのように企業のひとり

ひとりに提供できるような主要なコミュニケーションツールとしてひとつに統合していると AT&T ジャパンでは説明している。

AT&T Connect のその他の特長は以下の通り。(1)VoIPでの通信帯域は、平均35kbps、一般電話回線では、平均5kbpsという低帯域。(2)電話会議、Web 会議、オンライントレーニング、Web セミナー、多くのユーザへの同時配信など、複数のモードを同時に稼働できる。(3)登録ユーザ毎に「マイ会議室」(自分専用の常設会議室)の設置が可能。自分専用のURLを設定し、会議参加者にそのURLを通知することでいつでも会議が開催できる。(4)Microsoft Outlook、Lotus Notes のカレンダー機能からも会議への参加や参加予定を設定できる。(5)エンドツーエンドのSSL暗号化や会議の履歴や関連のファイルなどの情報漏洩を防ぐセキュリティの仕組み。(6)既存のITインフラや通信環境、そして企業内で使用されているアプリケーションとの連動が可能。

この AT&T Connect の前身は、米 AT&T が買収した Interwise 社の開発した Interwise Connect。(買収は、2007年10月に発表された。買収金額は未公表。)

AT&T ジャパンによると、AT&T Connect の料金は、パーペチュアルライセンスの場合で、一人当たり50,000円～(100ユーザ利用)を予定している。

日本アバイア、最大 300 ユーザが同時に会議できる Web 会議を発表

日本アバイア株式会社(東京都港区)は、Web コラボレーション・ソリューション「Avaya Meeting Exchange Express(アバイア・ミーティング・エクスチェンジ・エクスプレス)」を6月11日に発表。同月末から提供を開始している。

Avaya Meeting Exchange Express は、汎用サーバを使用するソフトウェアベースのソリューションで、最大300ユーザが同時に会議に参加できる。電話会議機能、アプリケーション共有、インスタント・メッセージ、ホワイトボード、デスクトップ共有、チャット、投票、アノテーション(書き込み)などが行える。ちなみに日本アバイアによると、電話会議機能で提供する音声品質は、通信事業者が提供する電話会議サービスと同等レベルという。

その他、会議内容の録音と再生、参加者へのダイアル

アウト、音声コントロール(ミュートなど)、セキュリティ設定、請求書コード設定など多数の機能が搭載されている。

「IBM Lotus Sametime 7.5」とのインテグレーションも可能。会議参加者をクリックで選択することで電話会議をすぐに開催することや、参加者、発言者の確認や新メンバーの招集、会議ロックなどの操作も行える。

さらにマイクロソフトの「Microsoft Outlook」ともインテグレーションは可能で、Outlookのインターフェイスから参加者の招集や、事前予約を行うと詳細情報が記載された出席依頼メールを送信したりもできる。

今回の発表で、同社のユニファイド・コミュニケーションソリューションの製品ポートフォリオ(モバイル・アプリケーション、ソフトフォン・アプリケーション、グループウェア連携、Webコラボレーション)の全てが国内においてワンストップで提供できるようになったという。

業界ビジネス動向-国内

NEC、テレビ会議機能を使った、メタボリックシンドローム対策遠隔指導支援システムの実証実験を7月より開始

日本電気株式会社(東京都港区)は、パソコンや携帯電話のテレビ会議機能を活用し、遠隔でのメタボリックシンドローム(内蔵脂肪型肥満)対策指導を支援するシステムを開発し、7月から実証実験を開始した。

このシステムでは、ネットワークを介して遠隔地を接続し、指導実施者と対象者が、ポータル画面を使って、対象者の健診結果や日々の体重等の健康情報を共有することができる。

これによって、以下の効果があると同社では考える。(1)対象者が保険指導機関へ出向く時間や手間を減らす。結果、CO2削減にも貢献する。(2)対象者と指導者がお互いに遠隔地間であっても指導の質を高めることができる。またそれによって途中脱落者を減らすことも可能になる。それに加え指導実施率の向上やメタボリックシンドローム該当者や予備軍の減少などにも寄与すると同社では考えている。

今回の実験システム開発の背景には、メタボリックシンドロームの早期発見を目的とした特定健診・保険指導制度の4月からの施行がある。ただ、現状では制度的な規制がある

が、指導実施者の不足や、指導管理や事務処理業務の膨大さ、保険指導実施期間に通う手間や時間の負担、などが大きな課題になっているという。

そこで同社では、将来的な規制緩和を見越して、普及が見込まれる遠隔面談による保険指導の実証実験を他社に先駆けて実施することになった。実験では、コミュニケーション品質やプライバシー保護などでの検証や、NGNの利用も想定したエクササイズ用の動画コンテンツ配信、ASP/SaaSでのサービス提供なども検討し、ヘルスケア製品市場への製品化を目指す考えだ。

業界ビジネス動向-海外

米 Compunetix 社、Sonexis 社の買収を発表

音声会議多地点接続装置などを開発する米 Compunetix(コンピュネティクス)社は、Sonexis, Inc.社(ソネクシス)の買収を発表した。両社とも未公開企業のためプレスリリースには買収金額は発表されていないが、両社にとって相互補完的な買収になると同社のプレスリリースでは説明している。

Sonexis 社は、音声会議とWeb会議の機能をもったサーバーシステム「Sonexis ConferenceManager(ソネクシス・コンファレンス・マネージャー)」を提供している。企業(エンタープライズ)系にユーザ導入実績を多数持つという。

今回の買収の目的はプレスリリースによると以下のようだ。(1)通信事業者、大企業、政府機関などに強みをもつコンピュネティクス社がソネクシス社のユーザベースを通して、企業ユーザへのリーチを高める。(2)コンピュネティクス社の製品ラインナップの強化。それによって既存のコンピュネティクス社のサービスプロバイダー系の顧客ユーザがマネージドサービス市場への進出を強化できる。(3)ソネクシス社の Sonexis ConferenceManager をコンピュネティクス社のグローバルセールスチャネルで販売する。

ConferenceManager は、音声会議では、PSTN(PRI回線)で最大 384 ポート収容、VoIP(SIP/H.323)では、最大 400 ポート収容できる。一方 Web 会議はオプションとして提供されているが、最大 400 シート(=400 人分、音声会議やテレビ会議はポートと表現するが Web 会議ではシートと表現している場合が多い。)までサポートされている。し

かし、設置は簡単で、Sonexis 社のウェブサイトには、30 分で簡単に設置ができるとPRしている。

米ライフサイズ社、中国での新たなディストリビュータとの提携を発表

米ライフサイズ・コミュニケーションズ社 (LifeSize

Communications) は、中国の IT 系に強いディストリビュータである、Beijing Founder Century Information System Co., Ltd. と提携したことを 6 月 21 日に発表した。

Founder Century 社は、中国国内でも有数の IT ディストリビュータで、システムインテグレーションビジネスやロジスティックシステムを中国全土において展開している。今回の提携によって、Founder Century 社のディストリビューションネットワークとサービスとサポートチームを通して、LifeSize 社の HD ビデオ会議システムを中国市場に強力に販売していく考えだ。

米 Avistar 社、英 Touchline Video 社とディストリビューション提携

米 Avistar Communications 社は、イギリスのテレビ会議専門のディストリビュータ Touchline Video 社と提携したことを発表した。(8 月 5 日)

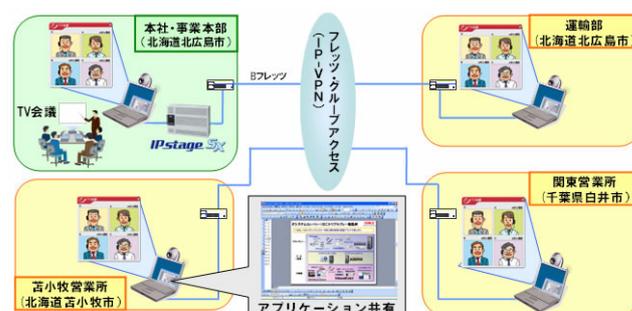
Avistar 社のパソコン向けテレビ会議システム「C3 desktop Videoconferencing Solution (C3 デスクトップ・ビデオカンファレンシング・ソリューション)」を Touchline Video 社の販売チャネルを通して、イギリス国内でのデスクトップテレビ会議システムの拡販を狙う。

導入・利用事例

丸吉運輸機工、沖電気工業のソフトフォンテレビ会議システムを導入、提案・構築は北第百通信電気

丸吉運輸機工株式会社(北海道北広島市)は、沖電気工業株式会社(東京都港区)の IP&モバイル ビジネスフォン「IPstage SX(アイピーステージ SX)」をベースとした「Com@WILL ソフトフォン」によるテレビ会議システムを導入した。システムの提案及び構築は、北第百通信電気株式会社(北海道札幌市)が担当した。

丸吉運輸機工は、大型トレーラーによる鋼材輸送をはじめ、土木工事の請負、工事現場で用いられる大型機械の賃貸を手がけている企業。企業として環境に配慮した経営を積極的に推進する取り組みをおこなっており、交通エコロジー・モビリティ財団が定める「グリーン経営認証」を取得している。



システム構成図

今回稼働を開始したシステムは、本社を含む北海道内 3 箇所の事業所と関東営業所を、沖電気工業の Com@WILL ソフトフォンがもつテレビ会議機能で結んだ IP テレフォニーシステム。各拠点は、NTT 東日本の IP-VPN サービス「フレッツ・グループアクセス」で相互に接続した。

導入前では、集合会議を開催する際に、1つの拠点に社員が集まることで会議を行っており、特に千葉県にある関東営業所との会議のためには、北海道から毎月 2 回ほどの出張が必要だった。しかし、Com@WILL ソフトフォンのテレビ会議を今回導入した結果、出張経費と時間の節約、そして意思決定のスピードを向上ができたという。

各拠点のノートPCにはソフトフォンがインストールされ、最大 4 拠点までの社員が同時にテレビ会議を行うことができる。会議を行う際には、テレビカメラで各拠点の会議室の様子を相互に配信するとともに、机上に設置したマイクスピーカーを通じて、1拠点で複数の社員が会議に出席していても自由に発言が行える環境を構築している。

IP&モバイル ビジネスフォン IPstage SX は、従来のビジネスフォンでは扱いにくかった IP 電話機や IP 対応のモバイル端末を内線端末として収容できる IP テレフォニー対応のビジネスフォン。Com@WILL ソフトフォンは、テレビ電話、テレビ会議(最大 4 者)、アプリケーション共有、留守録音などの機能を持つ。音声には、同社が開発した「e おと」が搭載されている。

北京オリンピックでタンバーク社無料のビデオ会議サービスを提供、オランダ選手団本国の家族・友人たちと“会う”



タンバーク社は、北京オリンピック開催期間中にオランダの五輪選手団向けに、無料のビデオ会議サービスを提供し、そのサービスによって、北京に滞在していた選手たちは、オランダ本国の家族や友人と面と向かって対話することが出来た。

今回タンバークは、オランダと中国にそれぞれ2カ所ずつビデオ会議システムを設置した。オランダでは、アムステルダムオリンピックスタジアムとPapendalのオランダ五輪委員会(NOC*NSF)本部に、一方中国では、香港の馬術競技会場と、北京のHolland Heineken House(オランダ ハイネケンハウス)にビデオ会議システムが設置された。

「競技会場が中国内の複数箇所に分散しているため、オランダ選手団もそれぞれの会場に分かれている。このような環境で、ビデオ会議システムは、物理的な距離に関係なく、各選手がリアルタイムにお互いの状況や結果を生で共有し、チーム全体の士気を高めるための優れた媒体としての役割を果たしてくれる。」(NOC*NSF シニアマーケティング マネージャー marco Antonietti 氏) 今回の有効活用を受けて、NOC*NSF はタンバーク社のビデオ会議システムを活用して意思決定のプロセスのスピードアップを図る予定だ。

セミナー・展示会情報

Adobe Connect 新バージョン紹介セミナー
オンデマンドとリアルタイムのeラーニングを実現する
Connectの進化に刮目！！

日時:9月5日(金)14:00~16:15 (開場 13:30~)

会場:アドビ システムズ株式会社 会議室(東京品川区)
主催:株式会社大塚商会
協賛:アドビ システムズ株式会社/NEC システムテクノロジー株式会社

詳細・申込:<http://event.otsuka-shokai.co.jp/08/1009adobe/>

「現場が本当に満足する会議システム」セミナー
~ヤマハ独自の高音質技術が実現する、高品位な遠隔コミュニケーション~

日時:9月11日(木)13:30-16:40 (受付開始:13:00)

会場:NEC ブロードバンドソリューションセンター関西
(大阪府大阪市中央区城見 1-4-24 NEC 関西ビル)

主催:NEC UNIVERGE パートナーセミナー事務局

協賛:住商情報システム株式会社

詳細・申込:

http://www.nec.co.jp/univerge/seminar/partner080911/index.html?cid=016_01

PUG Conference 2007(Polycom User Group)

日時:10月19日(日)-22日(水)

会場:アメリカ フロリダ

主催:ポリコム・ユーザー・グループ

詳細:<http://www.pug.com/>

* ポリコムのユーザーカンファレンス&展示。

Wainhouse Research CSP Summit - Boston 2008

日時:10月27日(月)

会場:アメリカ ボストン

主催:Wainhouse Research, LLC

詳細:<http://www.wainhouse.com/cspsummit/>

InfoComm Asia 2008

日時:11月19日(木)-21日(土)

会場:香港, the Hong Kong Convention & Exhibition Centre

主催:InfoComm Asia Pte Ltd.

詳細: <http://www.infocomm-asia.com/>

*会議システム関連のパビリオンも設置予定。(IMCCA 主催)

編集後記

今回もお読み頂きまして有り難うございました。

次回も宜しくお願ひ致します。

CNAレポート・ジャパン 代表 橋本 啓介